

令和5年度相談支援従事者指導者養成研修（地域づくりコース）事例シート（モデル事例）

都道府県名：モデル県

受講者氏名：モデル太郎

【事例概要】

Kさん（48歳・男性）、糖尿病性網膜症（視覚障害1級）、単身アパート生活（離婚歴2回あり）で生活保護を受給中。外出することなく、知人の女性に弁当や買い物を頼んで生活している状況。

【出会い】

若い頃から酒量が多く、30歳代で糖尿病の診断を受ける。40代前半で2回目の離婚をしてから、単身アパート生活となる。その後、40代半ば頃より視力低下が顕著となり電気工事会社の仕事を退職。以後、生活保護を受給しながら暮らしている。

これまでは屋内を手探りで何とか生活することができていたが、光が分かる程度に視力低下が進み外出時の危険性が増したため、障害福祉サービスの利用を希望した。そこで相談支援専門員と出会う。

【ニーズの把握】

初回のサービス等利用計画作成時は、生活の安心と安定を目的に家事援助（買い物と調理支援）を月30時間と通院等介助を月に5時間、地域定着支援の支給を受けた。モニタリング期間は毎月の決定を受ける。

モニタリングの際に自宅訪問すると、本人はテーブルに顔を伏せ、元気に迎える状態であった。ヘルパーの支援にはある程度満足しており、生活のしづらは軽減しているものの、抑うつ感が強く、訪問中も深いため息を吐くことが続く。

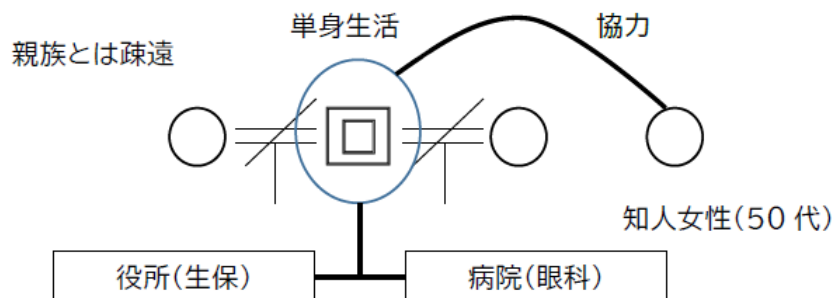
モニタリングでは、障害福祉サービスの利用満足度を把握することに加えて、ご本人の華の時代の会話に焦点を当てるように意識した。

相談支援専門員が関わり始めてから半年を過ぎる頃に、「必要な障害福祉サービスを利用しながら、今のアパートで安心して一人暮らしをしたい」ということと、「同行援護を通じて道を覚え、ゆくゆくは自力で移動できるようになりたい」というニーズに加えて、「何でも話せる仲間を作り、楽しく交流して充実した人生を送りたい」というニーズを把握した。

【利用者から見える風景及び置かれている環境（エコマップ）】

1. 出会いの時点

現 状「知人女性、眼科、役所との接点」

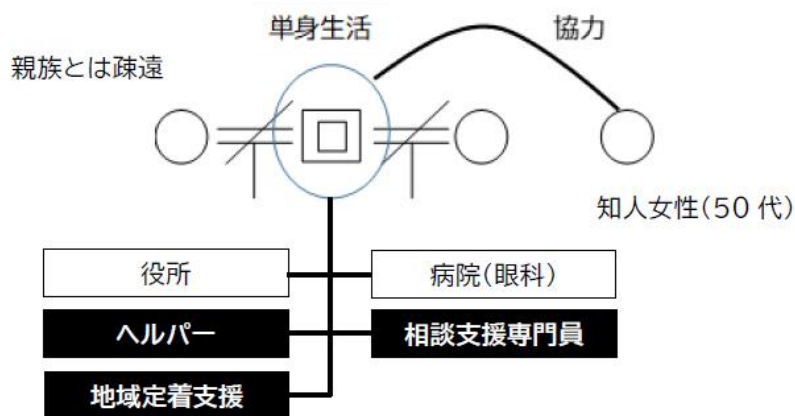


【関係性の構築とプロセス及び関係性の変化（アフターエコマップ）】

2. サービス等利用計画作成時

テーマ「障害福祉サービス関係者との出会い」

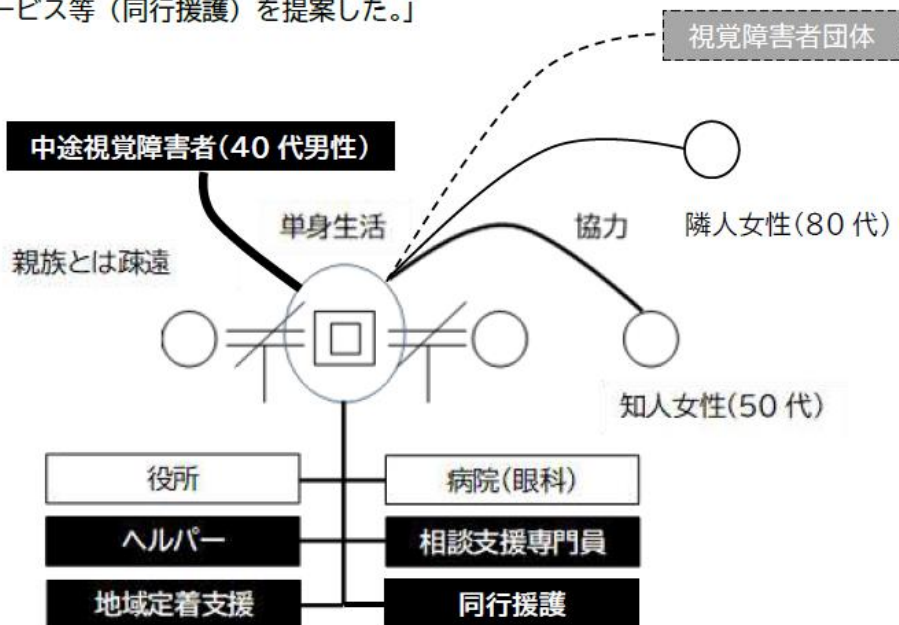
相談支援専門員の想いと支援「生活の安定を図るための障害福祉サービス導入し、モニタリングを通じて信頼関係を構築しながら真のニーズの把握した。」



3. 6ヶ月～1年目

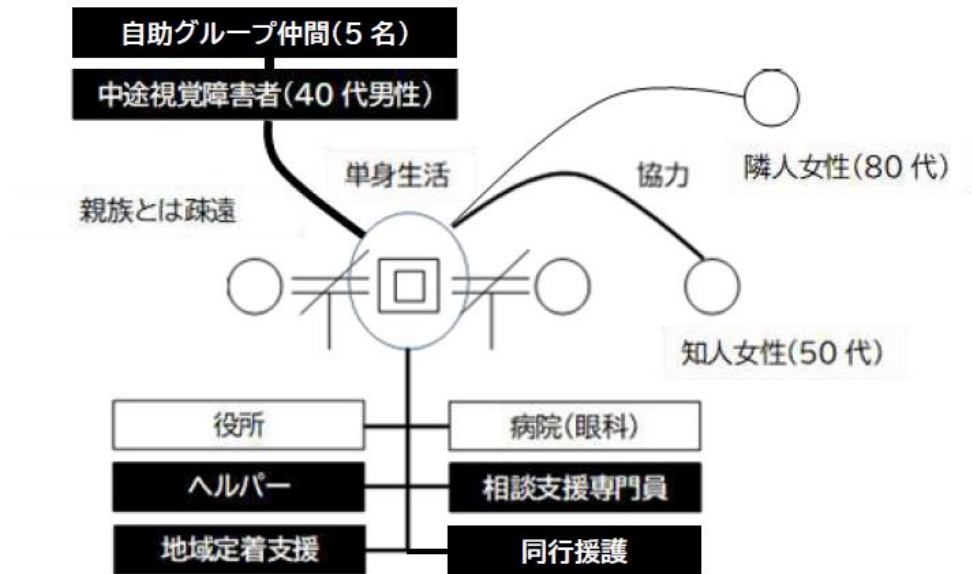
テーマ「障害当事者との出会いによる情報量のアップ」

相談支援専門員の想いと支援「ご本人のハートに響く支援のために、同じ立場の障害者との出会いやご近所との接点をつくるとともに、ご本人の気持ちの変化を踏まえて不足しているサービス等（同行援護）を提案した。」



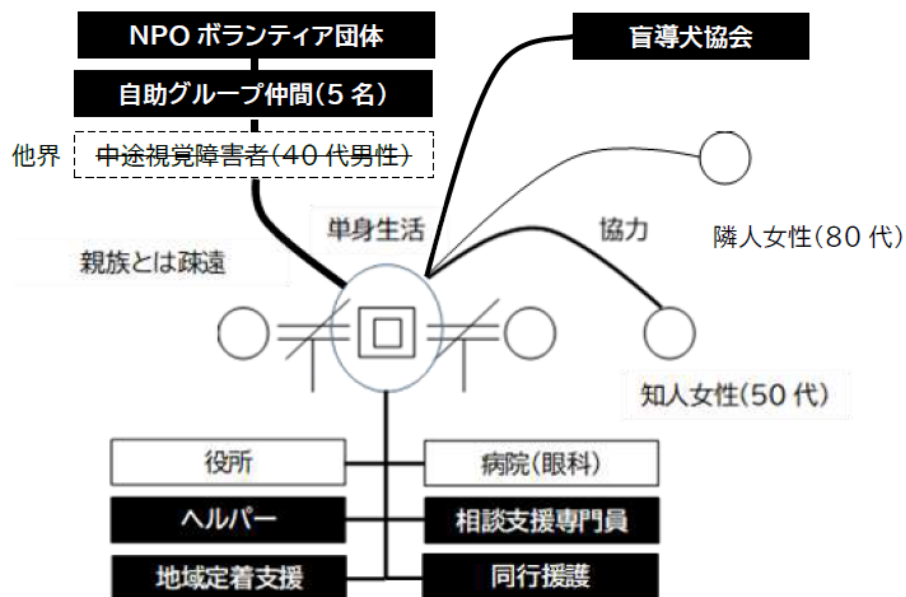
4. 1～2年目

テーマ「自助グループの発足（代表）」⇒花見に出かけたり、新聞や地元FMを活用して活動
相談支援専門員の想いと支援「密な仲間関係の醸成、他の仲間への呼びかけを自発的に広げたり、同行援護事業者を通じて具体的な活動につながることを見守った。」



5. 2～3年目

テーマ「ボランティアとのつながり」「盲導犬の検討」「親友との別れ（他界）」
相談支援専門員の想いと支援「親友との死別、ボランティア協力者の登場等さらに支援の輪とご本人が得られる情報の幅が広がる。自ら盲導犬に関する情報収集へ出かけてのマッチングに取組む等、セルフマネジメントするようになったことを見守った。」



【結果】

親友と死別した際は、かなり気分の落ち込みが激しかったが、その後は回復することができた。相談支援専門員としては、支援開始時はご本人の暮らしに焦点を当て、生活の安定が図られた後は、ご本人の気持ちに焦点を当てた。ご本人の孤独感を軽減するために、当事者団体や当事者との接点を作る支援を行った。結果、ご本人は後に親友となる当事者を選択し、その後、2人は協力し合って自助グループを作った。

暮らしの安定と共に、気持ち（心）が安定してくると、ご本人自身がもつ力を発揮することができエネルギーに社会活動に取り組むようになり、ご本人は自発的に仲間や協力者を増やして行った。ある程度、各種活動が軌道に乗ったことや親友の他界をきっかけに、再び自分自身のことを見つめ直していったように思われる。盲導犬への関心が向いたのは、共に生きていくためのパートナーを得たいという気持ちがあるからではないかと推測している。

現在は表情も明るくなり、ヘルパーのサービス量も家事援助を月 20 時間に減らし、知人やご近所の協力も得ながら安定した生活を送っている。